

ヒブ(インフルエンザ菌b型)ワクチン についての説明



静岡県立こども病院 予防接種センター

1) インフルエンザ菌感染症

ヒブ菌(インフルエンザ菌 b 型)は髄膜炎や肺炎、気管支炎、中耳炎、クループ(急性喉頭蓋炎)、敗血症などを引き起こす病原性の強い細菌です。特に乳幼児がかかりやすいという特徴があります。他の感染症は一度かかると免疫ができて 2 回目はかかりにくくなりますが、ヒブ菌は免疫ができにくく、繰り返して感染します。名前は冬の流行性感冒の原因となるインフルエンザウイルスと似ていますが、全く別のものであります。

ヒブ菌が恐れられる最大の理由は細菌性髄膜炎という脳の感染症を引き起こすからです。正確には脳や脊髄を包んでいる膜(これを髄膜といいます)への感染症ですが、症状が重くなると脳障害も合併します。ヒブ菌による細菌性髄膜炎は、生後 3 か月から 2 歳までが最もかかりやすい時期です。日本の年間患者数は少なくとも 600 人と報告されています。

ヒブ菌の髄膜炎にかかると抗生物質による治療を受けても約 5% (年間約 30 人)が死亡し、約 25%(年間約 150 人)に知的障害や聴力障害、てんかんなどの後遺症が残ります。さらに最近では、抗生物質の効かない菌(耐性菌)も増えてきており、治療が困難になってきています。かかる前の予防が最も効果的な治療です。

2) ワクチンの効果

ヒブワクチンは、4 回の接種を受けた人のほぼ 100%に抗体(免疫)ができ、ヒブ菌感染症に対する高い予防効果が認められています。

3) ワクチンの特徴

ヒブ菌の莢膜多糖体を、無毒化した破傷風トキソイドに結合させ、免疫効果を高めています。

4) 接種方法

○標準として生後 2 か月から 7 か月になるまでに接種を開始します。初回免疫として、0.5ml を 3 回、4 週間以上の間隔で皮下に接種します。医師が必要と認めた場合は 3 週間の間隔で接種することができます。その後 1 年の間隔をあけてもう 1 回 0.5ml を皮下に接種します。

○接種開始年齢が 7 か月以上 12 か月未満の場合

初回免疫として、0.5ml を 2 回、4 週間以上の間隔で皮下に接種します。1 年後にもう 1 回 0.5ml を追加接種します。

○接種開始年齢が 1 歳以上 5 歳未満の場合

0.5ml を 1 回、皮下接種します。

5) 副反応

最も多くみられるのは接種部位の発赤(赤み)や腫脹(はれ)で、4 割程度にみられます。また発熱が数%にみられます。

6) 接種後の注意

ワクチン接種後 30 分間は院内にとどまり、様子を観察してください。接種部位の腫脹、体の発疹、じんましん、気分不良、嘔吐、咳や呼吸困難などの症状が見られたら、直ちに接種した医師か看護師に声をかけて下さい。この間に全く異常が見られなければ、看護師にその旨、一声かけて帰宅して下さい。

7) 帰宅後の注意

激しい運動はさけて下さい。その他はいつも通りの生活を送ることができます。入浴もさしつかえありませんが、注射した部位をこすらないで下さい。